

## はじめに

全国大会の予選エントリーは、近年 40 都道府県を超えるほどになり、2009 年からは、一般の部と年代別の部との分離開催によりさらに発展のスピードがまましてきている。しかし従来の規定が対応しきれなくなり多くの矛盾点も生まれてきた。

「スポーツが主人公」の合言葉に、「フェアプレーの精神」でルールを遵守する中で競技力と人格を高め、全国の卓球愛好者の目標となる大会のさらなる発展のために、また、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない現在、安全な全国大会を開催するために新たな規定を加えた。

### A. 全国大会出場に参加資格について

#### 1. 前年大会の成績による推薦出場

- 1) 一般団体 ベスト 4
- 2) 年代別団体 ベスト 4
- 3) 個人一般 ベスト 8
- 4) 個人年代別 ベスト 4

#### ※補足

全国推薦であっても**加盟・非加盟にかかわらず**(予選を通過した)各都道府県協議会の規定に従わなければならない。

推薦出場団体の登録メンバーは翌年の推薦出場権利を得た大会の登録メンバーが大会当日過半数を超えなければならない。この規定を満たすことができない場合はオープン参加とする。

推薦出場団体のメンバーが死去し上記の条件を満たすことができない場合や個人戦推薦出場の権利を得た選手が死去した場合その権利は消滅する。

2. 各都道府県予選会通過チーム及び個人
3. 各地域協議会が推薦したチーム及び個人

### B. 大会形式について(予選会・本大会共通事項)

#### 1. 一般・年代別団体戦、一般・年代別個人戦共通事項

- 1) 1ゲーム11本の5ゲームスマッチ(一般の部のダブルスは3ゲームスマッチ、年代別の部のダブルスは5ゲームスマッチ)の予選リーグ後、1位通過チーム及び選手による決勝トーナメント戦とする。
- 2) ジュース:10-10になったときから双方が1本ずつサービスを行い2点差をつけるか先に13ポイントを得た選手がそのゲームの勝者となる。
- 3) 条件を満たせば一般大会と年代別大会の両方に参加できる。

#### 2. 団体戦

##### 1) 一般の部

1ダブルス3シングルとする。(1番ダブルス2番シングルス3番シングルス4番シングルス)

2対2となった場合は最大8人の登録選手の中から代表選手を選びビクトリーマッチを1セットマッチで行い勝敗を決する。1番のダブルスに出場した選手は2番3番のシングルスに出場できない、シングルスに2度出場することはできない。4番のシングルスに出場した選手はビクトリーマッチに出場することはできない。

ビクトリーマッチの代表選手は2対2になった時点で決定する。

##### 2) 年代別の部

1ダブルス2シングルスとする(1番ダブルス2番シングルス3番シングルス)

1番のダブルスに出場した選手は2番のシングルスに出場できない。1番のダブルスは5ゲームスマッチとする。

#### 3. 個人戦

- 1) 共通事項に準ずる。

### C. 予選会について

#### 1. 共通事項

- 1) 出場できる都道府県予選は1ヶ所とする。

#### 2. 卓球協議会のある都道府県で開催される場合

##### 1) 団体戦

- ① 加盟登録チームは登録した都道府県の予選に出場する。
- ② 非加盟のみのチームおよび、加盟員と非加盟員との混成チームは、当該都道府県に在住・在勤・在学の選手で半数以上のメンバーで構成され、その都道府県の予選に出場する。
- ③ 他の県の選手とチームを編成することが出来る。その場合、卓球協議会のある都道府県の選手とも編成できるが、他の県の選手がチームの半数以下であること。
- ④ 団体戦の年代別に出場の場合は、その該当する年代のクラスに出場する。ただし、年代が混合する場合は最年少者の年代のクラスに出場しなければならない。

##### 2) 個人戦

- ① 加盟登録者は登録した都道府県の予選に出場する。
  - ② 非加盟者は在住・在勤・在学の都道府県に出場する。
3. 卓球協会のない都道府県で開催される団体戦の場合
- 1) 団体戦
    - ① 予選会を行う当該県に在住・在勤・在学の選手を必ず一人はチームに加える。
    - ② 本大会と大会形式が異なる場合、選考基準を明確にしておく。
  - 2) 個人戦
    - ① 本大会と大会形式が異なる場合、選考基準を明確にしておく。

## D. 本大会について

- 1. 団体戦
  - 1) 共通事項
    - 予選会に出場した選手は、本大会出場他チームの追加登録選手になることはできない。
    - ただし、同一クラブで複数チーム参加の場合は除く。また、申込締切日以後のメンバー変更は特別な事情のない限り認めない。
  - 2) 審判について
    - 相互審判とする。審判は双方のチームから同数出すこととし判定が食い違った場合はスポーツマンシップにのっとり紳士的に決定する。決定できない場合の最終決定権は審判長に帰属する。
  - 3) オーダーミスについて
    - 試合開始前、オーダー交換時にミスに気が付いた場合はオーダーを提出しなおすことができる。試合開始後に気が付いた場合は該当対戦のみゲーム数0-3の敗戦としポイントは各ゲーム0-11のポイントとする。(ビクトリーマッチは0-1の0-11)
    - 対戦が終了し確認のサインがされた対戦成績は確定する。
  - 4) 一般の部
    - 予選会に出場した選手を半数以上必ず登録すること。
    - 登録選手は8名までとする。ただし、他の都道府県の予選に出場した選手を追加することはできない。
  - 5) 年代別
    - 予選会に出場した選手を半数以上必ず登録すること。
    - 登録選手は5名までとする。また、他の都道府県の予選に出場した選手を追加することはできない。
- 2. 個人戦
  - 卓球協会のある県から参加する選手は、その地域で開催された予選会を通過すること。卓球協会のない県から参加する選手は、その地域で開催された予選会を通過するか、予選会担当県の推薦を受けたその地域在住、在勤、在学の者でなければならない。

## E. 規定違反について

- 1. 大会前に違反が判明した場合、チーム及び選手は本大会に出場できない
- 2. 大会の予選リーグ中に判明の場合、予選リーグ中はオープン試合とし、決勝トーナメント中に判明した場合、その試合は中止する。大会終了後に判明した場合は、その成績を無効とする。
- 3. 大会終了後も含めて規定違反が判明した場合、登録チーム全員および個人は次大会には出場できない。

## F. ランキング及び次大会シード順について

- 1. ランキング及び次大会シード順は、当該大会役員で構成されたメンバーで決定する。
- 2. ランキングは全国大会での成績順とし、一般団体はベスト16・年代別団体はベスト8・一般個人戦はベスト16・年代別個人戦はベスト8までとする。
- 3. 上記2.を基本に次大会のシード順とする。第1~4シードは同一都道府県の対戦を考慮しない。第5~8シードは同一チームの対戦を配慮する。第9~16シードは同一都道府県の対戦を配慮する。不参加があった場合は、順位を繰り上げとする。
- 4. 年代変更によるシード順は、それぞれの前年年代シードを上位とする。  
(例:Aで優勝し次大会Bに出場の場合、ランキングは2位となる。)
- 5. 過去の全国大会での成績は、2大会前までを考慮する。
- 6. 全国卓球協会の推薦チーム及び選手のシード順等は上記1.で決定する。

## G. その他

- 1. 出場した選手は、エントリーしたチーム名の入ったゼッケンを着用すること。
- 2. 団体戦のユニフォームは揃えることが望ましいが、それを参加資格の条件とはしない。
- 3. ユニフォーム等の基準は日本卓球協会のルールに準ずるがそのマーク入りを参加資格とはしない。

2010年4月1日規定

2014年10月18日一部改定

2015年2月28日一部改定

2018年6月10日一部改定

2019年2月22日一部改定

2022年3月14日一部改訂提案

2022年4月18日一部追記